

# タンザニアでの直近の事例・実績

令和2年11月

## 1 タンザニアにおける草の根・人間の安全保障無償資金協力の推移

タンザニアではこれまで、小中学校の教室棟を建設して、生徒達の学習環境を整えたり、診療所で産科病棟を建設して妊産婦が安全に分娩できる環境を提供したり、村に公共水道を整備し安全な水へのアクセスを改善するなどして、地域社会に貢献してきました。

例えば、2019年にウングジャ島アーバンウェスト州に給水設備を整備し、水源である井戸から遠方に暮らす人々が容易に安全な水にアクセスできるようになりました。毎日の水の運搬は就学適齢期の女性が行っている事が多く、水量が少ない時期には片道10km以上離れた井戸まで水を汲みに行く必要があった人々にとって、この事業は、就学時間の確保や健康面の向上に加え、生活の質(QOL)の向上にも貢献しています。



ウングジャ島アーバンウェスト州給水計画（2020年4月）

保健分野では、地方部の診療所に手術用医療機器を整備することで、帝王切開を伴う出産や手術のために、片道およそ100km離れた病院へ赴かなければならなかった人々が、医療サービスにアクセスしやすくなりました。また、別の事例として、地方の地域中核病院へ日本から救急車2台を供与し、地域住民の医療アクセスへの改善だけでなく、国内外から観光客が訪れ、日本人観光客にも人気が高いキリマンジャロ山登山で高山病等に伴う緊急搬送にも使用されています。



ルクワ州手術用医療機器整備計画（2019年11月）



キリマンジャロ・クリスチャン・メディカルセンター救急車整備計画（2020年10月）

また教育分野に関する支援の例としては、2020年にウングジャ島南県の海沿いに所在する中学校において、劣化の激しい教室棟2棟を改修すると同時に机や椅子を供与することで、生徒達の学習環境の改善に貢献しています。



ウングジャ島南県学習環境改善計画（2020年）

そして、現在日本が重視している女性支援という点に関し、2016年にマサイ族の人々が多く暮らすアルーシャ州において、タンザニアの未来の女性リーダーの育成を目指す全寮制の女子中学校「さくら女子中学校」の創設支援を行いました。これにより、長距離通学に時間と労力を割いていた女子生徒たちが、十分な学習時間を得られるようになり、早朝および夕暮れ時に危険な薄暗い通学路を歩く必要も無くなりました。2019年9月に開催された第74回国連総会では、安倍元総理の演説において同校が紹介され、現在ではタンザニア国内だけではなく近隣国からも注目を浴びる学校となっています。



第一回さくら女子中学校卒業式（2019年10月）



さくら女子中学校女子寮（2019年4月）

ほかにも、職業訓練や産業分野の案件も実施しています。例えばタンザニアの障がいを持つ方を対象とした職業訓練校を整備し、タンザニア国内で需要の高い服飾、電気工、石工業、木工業および農業・畜産業への従事を後押しすることに貢献しています。

## 2 直近の事業実績

表 1. 過去5年間のタンザニアにおける草の根・人間の安全保障無償資金協力事業推移

年度	件数	供与金額	
		米ドル	日本円
平成27年度	12	1,095,051	120,455,610
平成28年度	9	931,177	111,741,240
平成29年度	11	993,139	109,245,290
平成30年度	11	953,394	104,873,340
令和元年度	8	749,137	82,405,070
合計	51	4,721,898	528,720,550

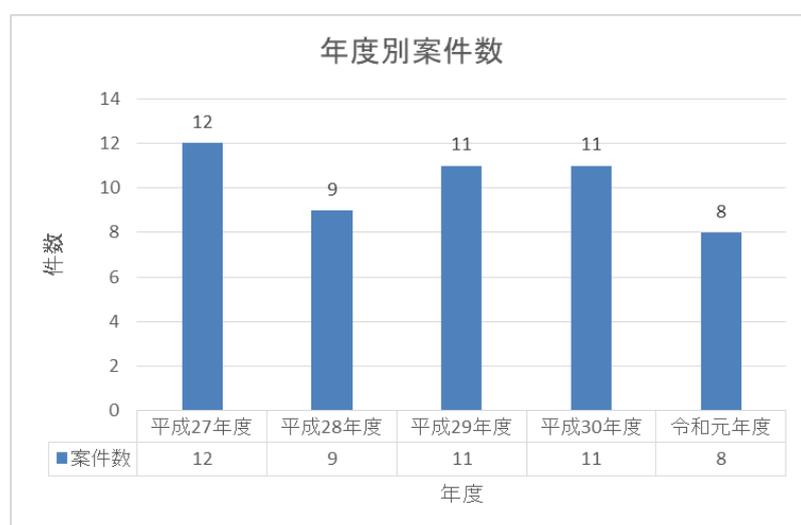


図 1. 年度別案件数推移

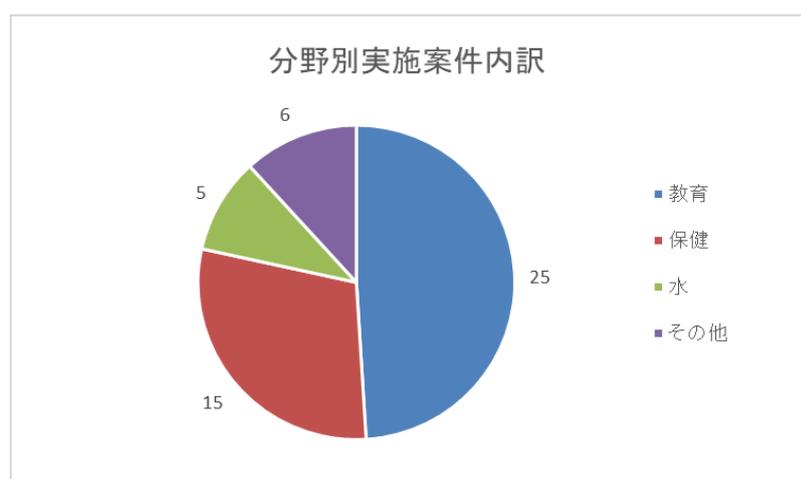


図 2. 分野別実施案件内訳（平成27年度～令和元年度：過去5年）